

第2回 宇野港宇野地区中長期ビジョン検討会

事務局説明資料

令和7年11月5日

中国地方整備局 港湾空港部

序章	これまでの経緯
第1章	第1回検討会での主なご意見
第2章	宇野港を取り巻く状況
第3章	宇野港中長期ビジョン（案）

宇野港宇野地区中長期ビジョン検討会 設置趣旨

令和4年度より、各地方運輸局等において、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながる、地域・日本のレガシー（遺産）となる新たな観光資源を形成するため、実現可能性調査・プラン作成が実施されているところ。

この中で、岡山県玉野市においては、「瀬戸内産業芸術祭『S・A・I』～Setouchi Art & Industry～」(以下、SAI)の構想を立ち上げ、瀬戸内エリアにおける産業、文化、芸術の振興のため、オープンファクトリーをはじめとする各種取組が進められているところである。また、SAIのゲートウェイとなる宇野港については、景観と機能性を調和させた新生宇野港のコンセプト案について議論がなされたところである。

宇野港宇野地区については、平成18年に水深10mの大型旅客船ふ頭が供用され、クルーズ船が寄港しているほか、平成20年には当該客船バースを含む宇野地区の各種施設が「みなとオアシス宇野」として登録され、クルーズ船寄港時の入港イベント等が行われているところである。また、瀬戸内海の直島・豊島・小豆島と宇野港を結ぶ内航フェリー・旅客船が就航しており、瀬戸内海の交通結節点としての機能も有している

他方で、平成3年に港湾計画が改訂されて以降、新たな企業立地が進んでおり、宇野港をとりまく環境が変化してきているほか、前述の新生宇野港コンセプトの中で中・長期的な開発の方向性も打ち出されており宇野港宇野地区の在り方を関係者間で議論し、まとめていく必要がある

そこで、宇野港宇野地区の港湾機能の向上・にぎわい空間の創出に向けた方策等を検討し、「宇野港宇野地区中長期ビジョン」としてとりまとめるため、有識者、関係団体・企業及び行政機関からなる検討会を設置する。

【宇野港宇野地区中長期ビジョン】

宇野港の将来像

基本戦略

具体的な取組

実現に向けた関係者間の取組の整理

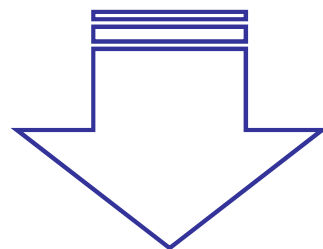
第2回検討会の内容

第1回検討会 (令和7年3月19日)

《第1回検討会の内容》

○宇野港宇野地区の港湾機能の向上・にぎわい空間の創出に向けた方策等を検討し、「宇野港宇野地区中長期ビジョン」としてとりまとめることを目的に検討会を実施。

⇒ 検討会各メンバーから現状の課題や意見、認識を共有。



第2回検討会 (令和7年11月5日)

本日の検討会

《第2回検討会の内容》

○前回検討会での意見と過去の事業の振り返りを整理し、事務局が整理した中長期ビジョンの取組を説明し、解決策・方向性について議論（意見交換）。

取組事項①：海上交通と陸上交通との結節点を生かした滞在型観光拠点の形成

取組事項②：都市間連携の観光ルートの形成・サービスの充実

取組事項③：戦略的プロモーション活動、情報発信の強化に関して

取組事項④：その他の取組について（自由意見）

⇒ 検討会各メンバーからの現状・課題、解決策（案）・方向性を議論。

以降、第3回検討会、第4回検討会

序章	これまでの経緯
第1章	第1回検討会での主なご意見
第2章	宇野港を取り巻く状況
第3章	宇野港中長期ビジョン（案）

第1回検討会での主な意見①

宇野港宇野地区の目指すべき方向性

- ◆ 宇野港宇野地区は直島などへのゲートウェイ、門前町という意識で進めるべき。
- ◆ 利用者の立場に立ったマーケティングを行うことが必要。
- ◆ 玉野市や周辺住民の声をしっかり聞いて進めていくことが大切。
- ◆ この港に行ってみたいと思えるような「目的地」としてたくさんの人が賑わう港を目指すべき。
- ◆ 通過点にならないよう、玉野で消費が生まれるようにするべき。
- ◆ 宇野が持っているものにもう一度目を向け、そこを観光資源として強化していくべき。
- ◆ 観光資源を活用した持続可能な開発をテーマに掲げるとよい。観光で経済を回す仕組みを作ることが重要。
- ◆ まずは、玉野市や岡山県内の住民が、普段から何度も訪れようと思うことのできる場所にしなければならない。そうでなければ訪日外国人旅行者も宇野港で時間を使う意識が芽生えない。
- ◆ Walkableな空間がまちづくりにとって重要。

ターゲットについて

- ◆ 人口が減っていく中、ターゲットは日本人国内旅行者なのか訪日外国人旅行者なのかを定めなければならない。
- ◆ 宇野港の利用者には欧米の観光客が多いため、欧米系をターゲットに考える。
- ◆ まずは、玉野市や岡山県内の住民をターゲットに考え、そこから訪日外国人旅行者にも広げていく。

アクセス面（海上・陸上交通結節点）での機能強化について

- ◆ 倉敷方面・岡山空港へのアクセスが脆弱なため、他地域と連携してアクセス強化を目指すべき。
- ◆ フェリーで直島を経由して高松に行く場合の乗り換えのダイヤが悪い。
- ◆ 臨時のバスや電車はイベントが終わった後も定着してほしい。
- ◆ 小型船の乗り場とフェリーの乗り場が離れているため、機能を集約するか、外国語併記の案内板を掲示する。
- ◆ 宇野地区エリア内外で観光客の自由な回遊性を確保することが大切。（電動キックボードや自転車の利用など）
- ◆ 神戸港のようにクルーザー等が寄港できる棧橋があれば、海からのアクセスも強化できる。
- ◆ 無料の駐車場、立体駐車場の整備。駅から港までを観光客が影響なく移動できるようにする。
- ◆ 安価なレンタカーの仕組み、宇野地区のみならず市内回遊を促す。

第1回検討会での主な意見②

観光・にぎわい面の機能強化について

- ◆ どの交通機関を使う方にも対応できる観光案内所やお土産販売所を備えた複合施設があるとよい。
- ◆ クルーズ・フェリーの需要が平準化するようなニーズを作り出していく方がよい。
- ◆ 宇野港宇野地区は交通結節点であるため、乗り換えの待ち時間に訪れることができる場所が必要。
- ◆ **滞在箇所の拡大**（飲食店、体験型施設、工場見学、漁業見学、競り市体験、競輪バンク体験など）。
- ◆ 施設の誘致（水族館、ユニクロ、飲食店など）。
- ◆ 全体の統一感を大事にして、**宇野駅から宇野港まで一体と思えるようなデザインが必要**。（標識や建物など）
- ◆ 月極駐車場を移動して景観をよくする。
- ◆ 「食」の名物が必要。食事とお土産を購入できるシンボリックな直売所を整備する。
- ◆ 産業振興ビルの活用方法の再考（観光センターなど）。
- ◆ 定期的なイベントや野外コンサートが可能な施設の整備。

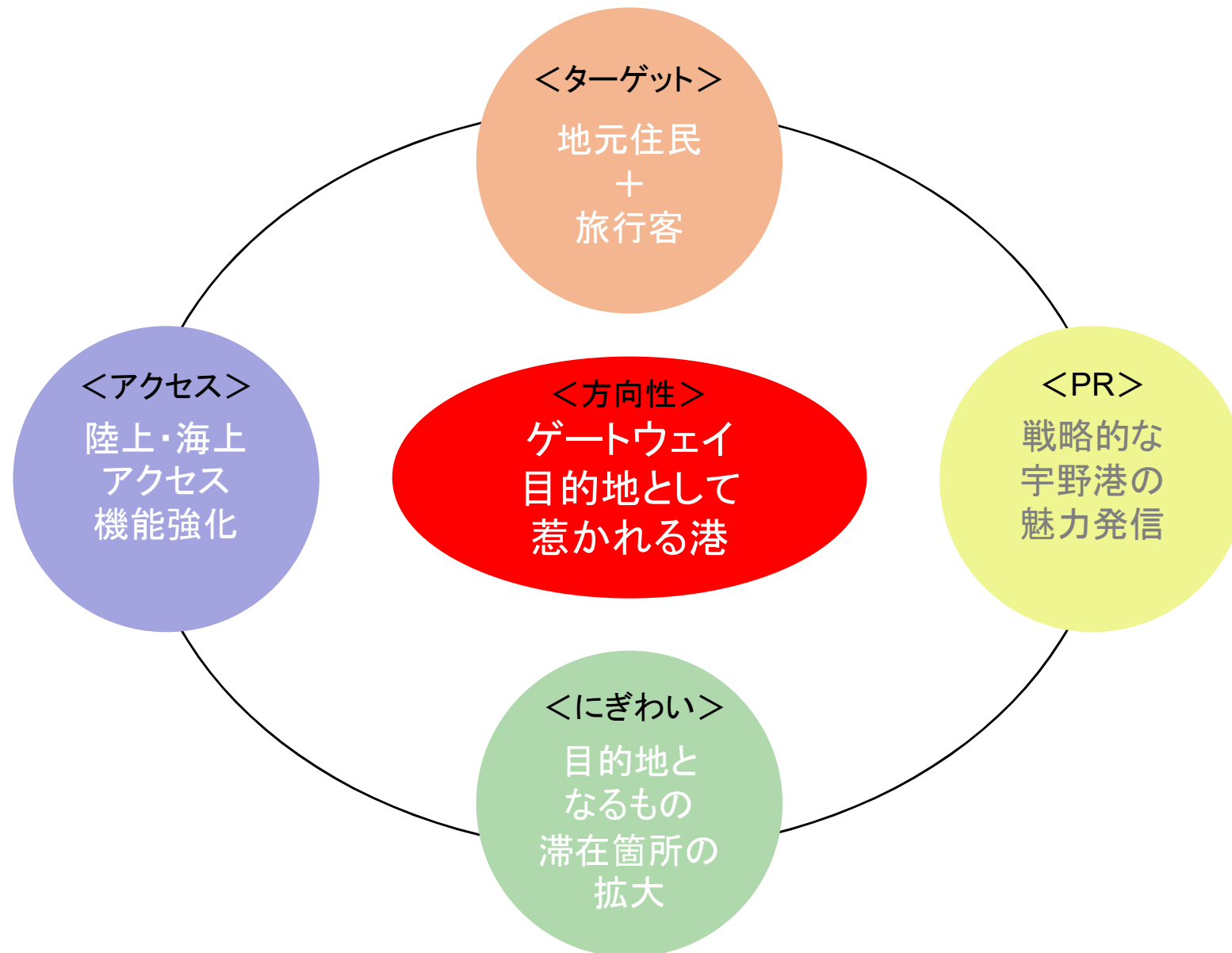
情報発信について

- ◆ 地域一体となり、利用者の立場に立ったマーケティングを行うことを考えた方がよい。
- ◆ 宇野港の魅力を知っている人が少ない。また**海外での知名度と比較して、国内での知名度が低い**。
- ◆ 岡山側からも直島へ渡れるということを積極的にPRする。
- ◆ 乗り換えの待ち時間に立ち寄れるスポットを案内するなど、情報発信が重要。
- ◆ 徒歩圏内の観光地をもっと宣伝していく。また、宣伝の仕方もある必要がある。

その他

- ◆ 宇野港の将来像となるイメージ図をまずは提示してほしい。その上で、こういう施設がある・いないという話をするのが重要ではないか。
- ◆ 大きな荷物を預けることができる24時間使用可能な有料のコインロッカーを宇野港近辺に設置する。
- ◆ 渋川のマリン水族館のポテンシャルをもっと伸ばす。
- ◆ **「芸術」だけでなく「歴史」も重要**と考えるため、宇高連絡船の記念館ができるとよい。

第1回検討会での意見のとりまとめ結果



- 序章 これまでの経緯
- 第1章 第1回検討会での主なご意見
- 第2章 宇野港を取り巻く状況
- 第3章 宇野港中長期ビジョン（案）

宇野港(宇野地区)における港湾計画の主な位置付け

- ・大型旅客船ふ頭へのクルーズ客船の寄港等による賑わいの創出
 - ・フェリー等による旅客輸送の拠点としての機能維持拡大
 - ・市民に親しまれる港として、緑地により快適な港湾環境の創出
 - ・大型旅客船ふ頭を耐震強化岸壁として整備し、災害時における被災者の避難及び物資等の緊急輸送に対応
- ※耐震強化岸壁の背後緑地を救援・復旧支援基地や避難地として位置づけ



【過去から現在】

①瀬戸内国際芸術祭の参加(平成20年～)

玉野市は2010年はオブザーバー、2013年から正式参加
2025年は瀬戸内の島々と沿岸部17エリアで構成

②玉野市中心市街地活性化基本計画(平成24年3月策定)

宇野港土地(株)が温泉施設(瀬戸内温泉たまの湯)を開設。
築港商店街では新規店舗に対する補助事業を展開。
新図書館整備等

③たまの版生涯活躍のまち(CCRsea)基本計画(平成29年開始)

※CCRC=Continuing Care Retirement Community

ヘルスツーリズムは根付かなかったが、宇野港土地(株)がUNOホテルを建設。

その後、競輪場にKEIRINホテル、田井地区北にセトニテ(グランピング施設)等の民間投資あり。

瀬戸内国際芸術祭の参加

宇野港の代表作



宇野のチヌ／淀川テクニック

瀬戸内国際芸術祭は、

2010年第1回目開催から大きな反響

玉野市は、2013年から正式に参加し、会場となる宇野港には、本州から瀬戸内の島々への玄関口となっており、世界的に有名な直島等が近接していることから、国内外から多くの観光客が訪れている。

瀬戸内の島々と沿岸部17エリア

岡山県では宇野港エリアが参加

➤現代アートによる地域の活性化

瀬戸内国際芸術祭での玉野市の取組

- 2010 宇野のチヌ
 - 2013 宇野港「連絡船の町」プロジェクト(～2019)
 - 2016 舟底の記憶、海の記憶、終点の先へ、宇野コチヌ、JR宇野みなと線アートプロジェクト
 - 2019 IN TRANSITION / IN PROGRESS
斜めの構成1 / 斜めの構成2 / 水平の構成3
 - 2022 宇野港街中プロジェクト(築港商店街:空き家3カ所)
夜間鑑賞時間の延長(島からの旅行者をターゲット)
本州から見た四国、食プロジェクト たまのの塩
-
- 2017 たまのステューデントガイドプログラム事業
(福武財団助成金活用)
・「宇野港を教育フィールドに」との考えの元、おもてなし活動を通してキャリア形成を考える機会を創出

- 本州側の玄関口である宇野駅・宇野港らしさを生かした作品
- 瀬戸内の島々と造船所、自然と人工風景の混在した作品
- 地域の歴史や文化に基づいた作品を展開

2025年の新たな取組み

- (1)新作6作品の展開(宇野港エリア12作品)
・新規3作品+既存1作品は同作家のシリーズものとしてエリア内広域4カ所に設置
- (2)官民協働による芸術祭の参加
・企業が地域課題解決に向けた参画
- (3)芸術祭シャトルバスの運行(1日7便:無料)



・芸術祭(観光)から地域の二次交通整備へ挑戦



市内への回遊や滞在に繋げる

宇野港 芸術際シャトルバス



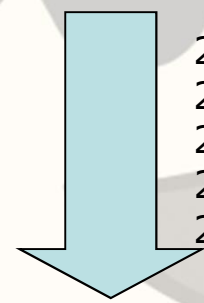
中心市街地活性化基本計画の認定

玉野市（中心市街地）の現状

- ・ 造船業の合理化、宇高連絡船の廃止による街なかの賑わい喪失
（歩行者通行量の減少・人口の減少）
- ・ 隣接都市の大規模小売店舗の立地による商業活動への影響
- ・ スペイン村構想の頓挫により J R 宇野駅東側に広がる遊休地
- ・ 直島への観光客は増加するも中心市街地の通行量は減少



築港商店街 H24.11.9 p.m.3:30撮影

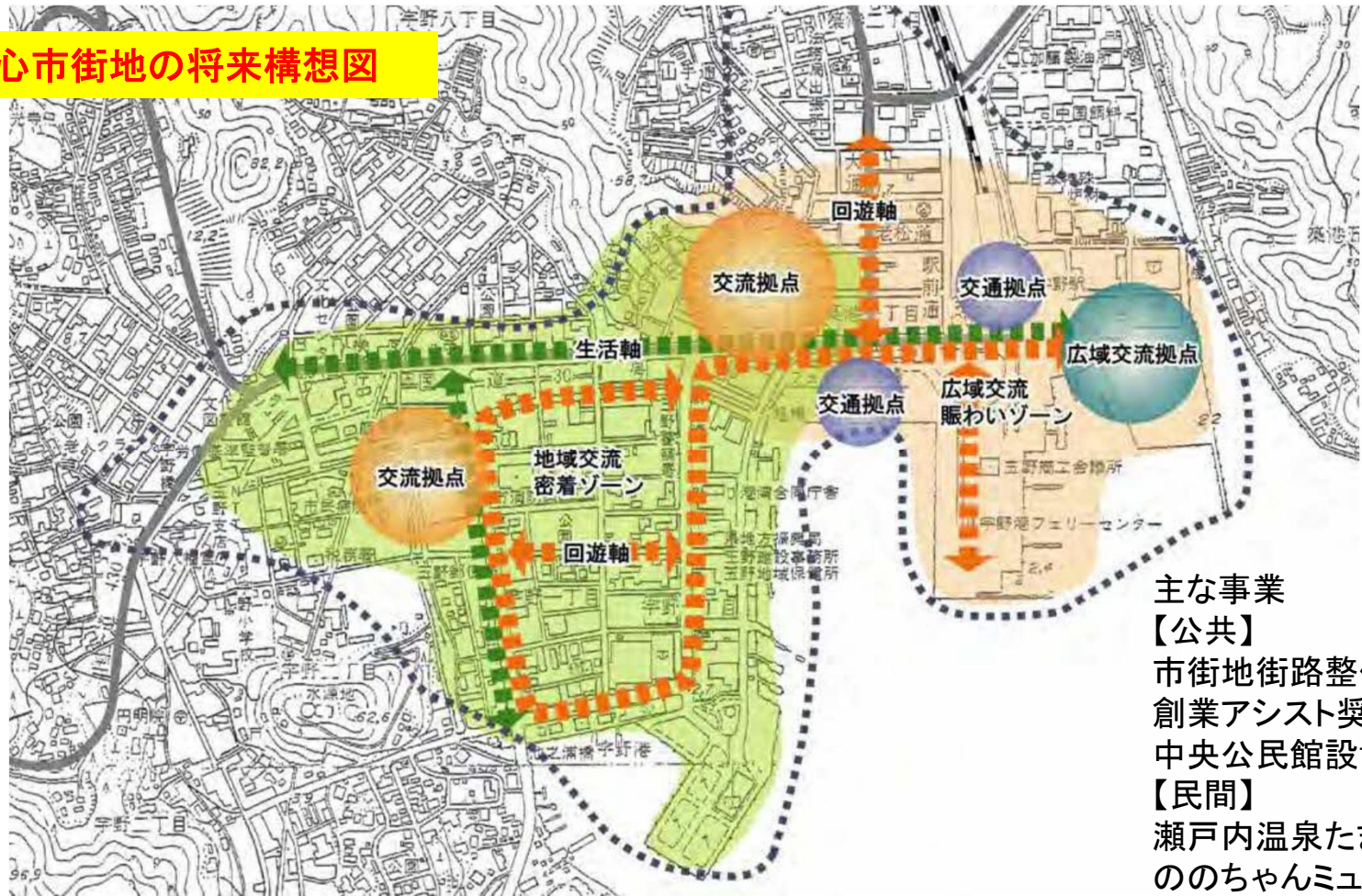


- 2008.4 まちづくり研究会（任意）設立
- 2009.4 中心市街地活性化協議会（法定）設立
- 2009.7 庁内に中心市街地活性化対策室 設置
- 2010.10 基本計画（素案） 策定
- 2012.2 認定申請手続き

2012年3月29日 認定

中心市街地活性化事業 (2012年度～2016年度)

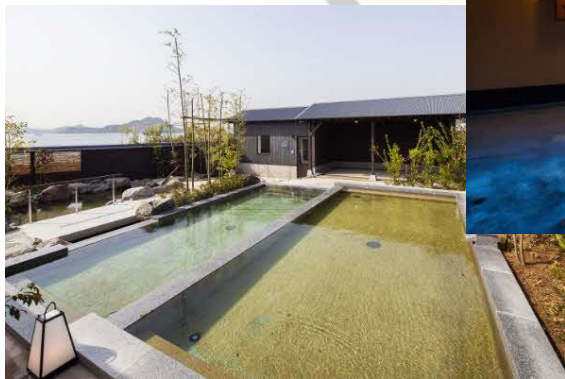
中心市街地の将来構想図



- 主な事業
- 【公共】
市街地街路整備・カラー舗装、
創業アシスト奨励金事業
中央公民館設置等
 - 【民間】
瀬戸内温泉たまの湯事業
ののちゃんミュージアム事業等

瀬戸内温泉「たまの湯」

- 事業主体：(株)宇野港土地
- 2012年戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金を活用し、2013年3月にオープン。
- 泉質：泉温30.3度、カルシウム・ナトリウム塩化物泉、ラドン成分を含有
- 主な効能：痛風、動脈硬化症、高血圧症、きりきず、やけどなど



クリエイター交流拠点「uz (うず) 」

【uz (うず) 】

- 事業主体：うのづくり実行委員会
(NPO法人みなと・まちづくり機構たまの)
- 2012年戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金を活用
- 築港の空き店舗を改装し、2012年9月オープン
- 市内に移住してきた若手クリエイターと地元住民の交流の場、クリエイターの移住を進める拠点施設
- また、日替わりで店舗経営を行い、その後、各店舗経営者が商店街に新規出店している
- うのづくり実行委員会が携わった移住者数は、
133組241人 (2025年9月現在、2011年始動)



新図書館等整備事業

ショッピングモール・メルカ



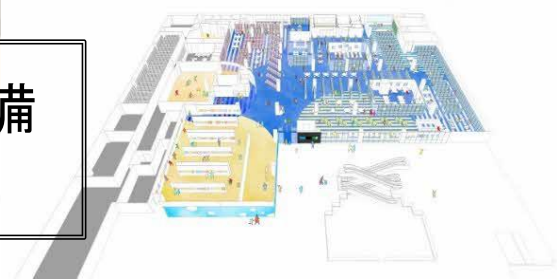
- 空きテナントの増加
- 売上の低下
- 施設の陳腐化 など

市立総合文化センター
(図書館・中央公民館)



- 施設の老朽化
- バリアフリーに未対応
- 駐車場の不足 など

メルカ2階に図書館・中央公民館を整備
2017年4月オープン



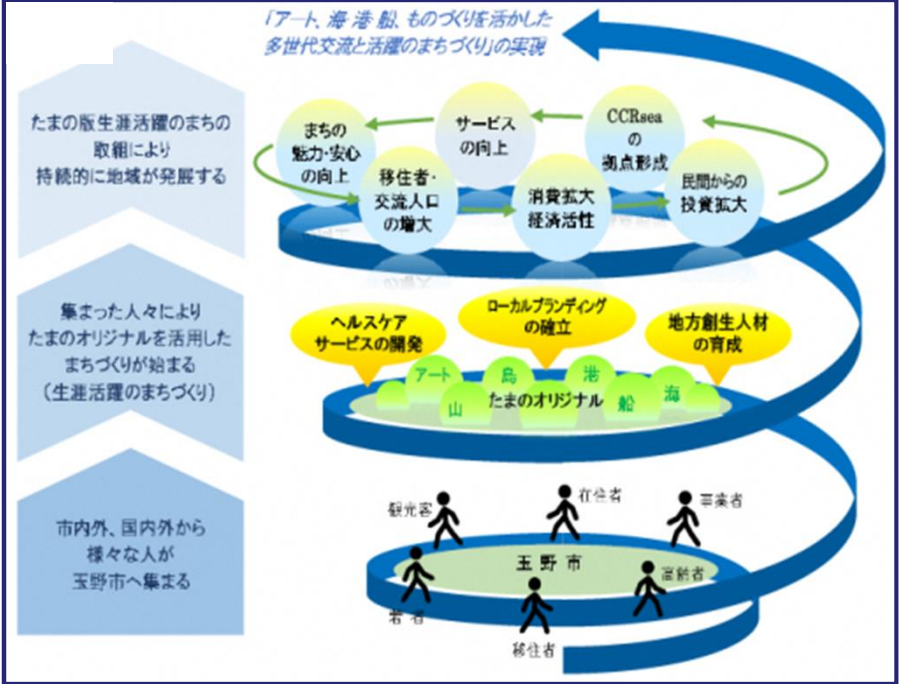
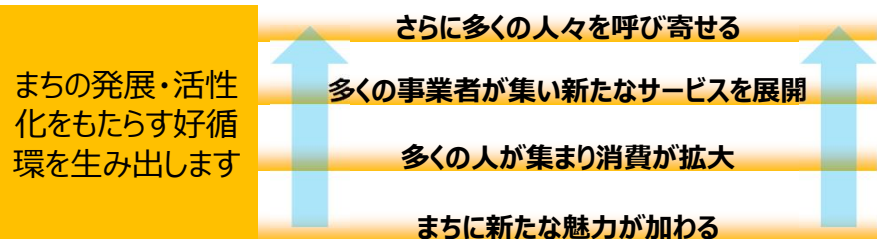
たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 2018年度～2023年度

■ 生涯活躍のまちとは

国が方針を示した「生涯活躍のまち」は、都市部から地方への高齢者移住を促進し、さらに移住した高齢者が、地方で積極的に社会参画することにより地方の活性化を促していこうというもの。この考え方を基本に、玉野市では、独自の考え方として、移住者や高齢者のみならず、**市民も若者も障害を持つ方も「誰もが活躍」という視点を加えている。**

■ たまの版生涯活躍のまちが目指すもの

「たまの版生涯活躍のまち (CCRsea)」が目指すのは、高齢者や移住者に加え、**学び働く若者や地域住民、事業者等が活躍することで、持続的な発展を継続できるまちをつくることである。**
 そこで、玉野市では、市内に点在する**多くの地域資源を活かしながら、「健康づくり」を核とした新たなサービスの開発**を行い、**まちのブランド化を進めるとともに、新たなまちづくりを担う人材育成**にも取り組む。



取組方針

■ たまの版生涯活躍のまちの5つの方針



- 1 たまのオリジナルを活用し、玉野らしさを追求する
- 2 若者が軸となる新たなまちづくりを実践する
- 3 市全域での効果の拡大を図る
- 4 誰もが安心して暮らせる地域共生社会の推進を図る
- 5 事業推進主体を中心とし、官民連携により構想を推進する

■ たまの版生涯活躍のまちで発揮する6つの機能

<p>1 「たまのオリジナル」があふれるまちづくりを進めます。 ～ローカルブランディング創出機能の発揮～</p> <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 体験型観光コンテンツに関する情報発信と予約販売の仕組の構築 ✓ デジタルマーケティングを活用した観光振興基盤整備 ✓ たまの版健康食の開発 	<p>2 楽しみながら健康になれるまちづくりを進めます。 ～ヘルスケアサービス開発機能の発揮～</p> <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ たまの版生涯活躍のまち健康プログラムの開発 ✓ 個人インセンティブを通じた市民の健康増進と市内消費を両立する仕組の構築 	<p>3 「地域」で「地域」を支えるまちづくりを進めます。 ～地方創生人材育成支援機能の発揮～</p> <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門的知識を有する人材の活用・育成 ✓ 観光推進・交流促進活動を通じた若者の育成 ✓ 地域で活躍するものづくり人材の育成 ✓ 知識や経験を活かした新たな講座の開発 ✓ 障がいを持つ方の活躍の場の創出
<p>4 いつものなにかが生まれるまちづくりを進めます。 ～交流支援機能の発揮～</p> <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康・交流・情報発信の3つの拠点機能を有する観光交流施設の整備 ✓ 新たな健康増進・交流促進拠点の形成 ✓ たまの海を活用した健康アクティビティの開発 ✓ 農業や漁業等の地域資源を活かした取組の推進 ✓ 「農泊」という新たな魅力づくり障がいを持つ方の活躍の場の創出 	<p>5 健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます。 ～医療介護支援機能の発揮～</p> <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「(仮)たまの生活情報プラットフォーム」の構築 ✓ 医療・介護人材の確保に向けた取組の実施 ✓ 移住者に対する地域参画促進情報の提供 	<p>6 行きたくなる、住みたくなるまちづくりを進めます。 ～移住支援機能の発揮～</p> <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 移住施策のさらなる充実 ✓ 空き家の活用・古民家の再生

- たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) のご紹介 -

玉野市と一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン (ICD) の官民連携事業として、主に以下の事業を進めています。

新たなWebサイトの運用が始まりました!

市内の観光・健康づくりに関するイベント等について、Webサイトから簡単に予約できるようになりました。その他、コラムや各種情報も掲載されています。



Webサイト(<http://www.setouchi-tcd.com/>)

関連事業

- ✓ 着地型観光商品の開発
- ✓ パッケージツアー商品の開発
- ✓ 健康食の開発

ローカルブランディング
創出機能

ヘルスツーリズム商品を開発しました!

サイクリングや海岸でのアクティビティ、地元食材等、観光しながら健康プログラムを実施することで、楽しみつつ「気づき」や「動機付け」を得ることができる商品を販売します。



ヘルスツーリズム商品のイメージ

関連事業

- ✓ 宿泊型新保健指導プログラムの開発
- ✓ 施設有効活用型プログラムの開発

ヘルスケアサービス
開発機能

観光ガイドやインストラクターを育成します!

ツアーの案内を行う「ガイド」や健康プログラムを提供する「インストラクター」を認定し、来訪者を案内できる体制を構築し、雇用の創出にもつなげます。



ガイド・インストラクター研修

関連事業

- ✓ 大学連携
※岡山県立大学の協力により、プログラム中の心拍数等のデータを取得し、身体への負担等を確認。

地方創生人材育成
支援機能

観光案内所・健康ステーションが完成!



JR宇野駅



玉野市観光協会との連携により、外国語対応や特産品販売等、リニューアルを実施。(4月17日 OPEN)メルガにおいて、「インボディ計測」や、特定健診にかかる初回面談・相談を開始。(4月6日)

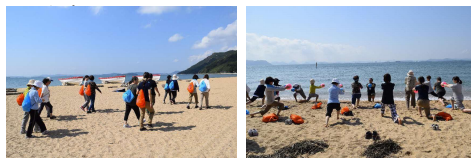
関連事業

- ✓ 渚の交番プロジェクト
※渋川海岸の拠点化を検討中
- ✓ みやま公園
※ウォーキング等の拠点化を検討中

交流支援機能

「健康づくり教室」を定期開催しています!

渋川海岸において、週1回、砂浜ウォーキングやストレッチ等の海洋療法プログラムを実践しており、介護予防等、市民の健康増進に寄与して



渋川海岸で実施する健康づくり教室の様

関連事業

- ✓ 既存の取組を活用した講座の実施
- ✓ 「(仮)たまの生活情報プラットフォーム」の活用

医療介護
支援機能

充実した移住支援を実施します!

IJUコンシェルジュが移住を総合支援します。空き家の活用にお困りの方等、お気軽にご相談ください。



空き家を活用したワークショップ

関連事業

- ✓ Webサイトと連携した移住の促進
- ✓ 空き家利活用促進に向けたIJUコンシェルジュとの連携

移住支援機能

■ 問い合わせ：玉野市総合政策課 生涯活躍のまち推進室 (0863-32-5580)

※令和元年5月29日

<瀬戸内国際芸術祭観光客数推移>

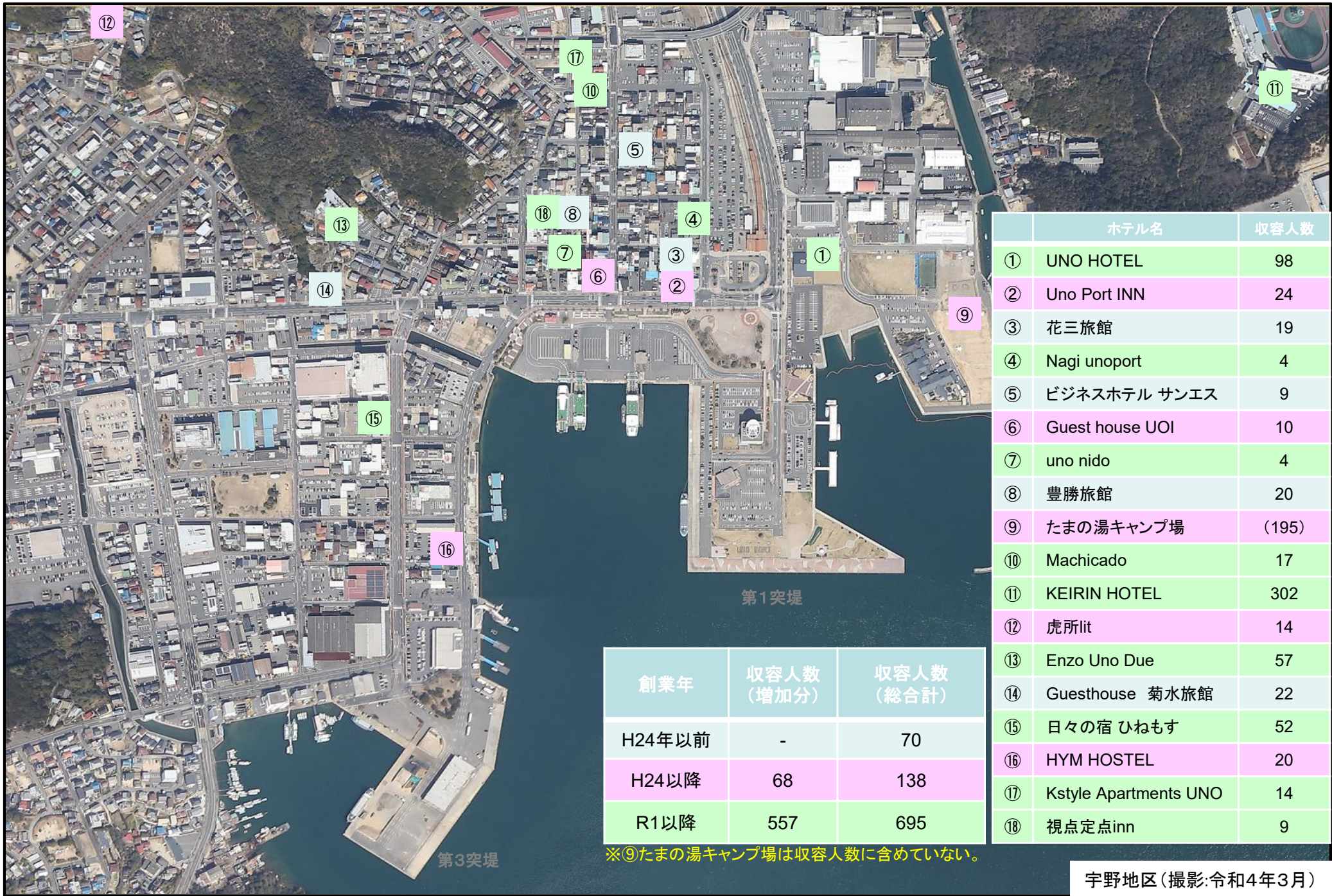
瀬戸内国際芸術祭2010	93万人			
瀬戸内国際芸術祭2013	107万人	(うち宇野港周辺	3万6千人)	
瀬戸内国際芸術祭2016	104万人	(//	3万8千人)
瀬戸内国際芸術祭2019	117万人	(//	4万7千人)
瀬戸内国際芸術祭2022	72万人	(//	3万5千人)

※2025では春・夏会期 60万人であり、全体で100万人を超える見込み

直島への渡航(約20万人)については、宇野港と高松市では7：3割合で利用

→ただし、依然として宇野港は本州から直島への通過点であり、宇野港を目的に訪れる誘客策が必要(宿泊や飲食、魅力的な施設等)

<参考> 宇野港周辺の宿泊施設等



	ホテル名	収容人数
①	UNO HOTEL	98
②	Uno Port INN	24
③	花三旅館	19
④	Nagi unoport	4
⑤	ビジネスホテル サンエス	9
⑥	Guest house UOI	10
⑦	uno nido	4
⑧	豊勝旅館	20
⑨	たまの湯キャンプ場	(195)
⑩	Machicado	17
⑪	KEIRIN HOTEL	302
⑫	虎所lit	14
⑬	Enzo Uno Due	57
⑭	Guesthouse 菊水旅館	22
⑮	日々の宿 ひねもす	52
⑯	HYM HOSTEL	20
⑰	Kstyle Apartments UNO	14
⑱	視点定点inn	9

創業年	収容人数 (増加分)	収容人数 (総合計)
H24年以前	-	70
H24以降	68	138
R1以降	557	695

※⑨たまの湯キャンプ場は収容人数に含めていない。

宇野港周辺の創業・宿泊施設の増加

▶ 民間活力の活用／官民一体の取り組み



UNO HOTEL
(2021年開業)



KEIRIN HOTEL 10
(2022年開業)



SETONITE
(2022年開業)



てんとうみ(グランピング)
(2022年開業)

街中に
ゲストハウスの増加

宿泊施設収容人数
(宇野港周辺)
2012以前 4社 70人
2012以降 8社 138人
2019以降 17社 695人

市の創業支援による
新規出店数
2016年度以降
飲食 28件
小売り 19件
宿泊 6件
情報通信 1件
計 54件

宇野港 ▼
2025年 初開催
8月
フランスフェスティバル
11月
Setouchi Contemporary

◎新たな企業の進出 株式会社パワーエックス



- ・次世代に向けたエネルギーの未来をつくる新たな企業
- ・日本最大級の蓄電池組立工場「Power Base」は、世界的建築家の妹島和世氏が担当するオープンファクトリー構想
- ・瀬戸内を訪れる観光客が立ち寄ることのできる自然やアートが混ざり合うクリエイティブな空間

→2025年6月 本社を玉野市に登記住所の変更

→2026年度に瀬戸内産業芸術祭の開催予定



玉野市の計画(現在)

【現在】

「玉野市総合計画(2023～)」

【産業・観光施策】

来て、見て、住みたい、にぎわいあふれるまち

「第3期たまの創生総合戦略(2025～)」

基本目標～ひとの流れをつくる～

観光入込客数 現在値1,634千人 →目標 1,700千人

「玉野市シティプロモーション戦略(2025年4月策定～2030年度)」

- ・統一したイメージによるブランド化の推進
- ・メインターゲットに応じた効果的な情報発信 等

【計画策定中】

・玉野市観光振興計画(2025:基本理念・基本方針、2026実施計画)

現状と課題整理を踏まえ、基本目標、基本施策(エリア設定等)、成果指標、推進体制等を検討

・玉野市都市計画マスタープラン改定及び立地適正化計画(2026策定)

用途地域、道路・公園等都市施設の配置、市街化整備に係る各種事業
住宅や都市機能の誘導 等

宇野港は都市拠点、交通拠点、観光交流拠点として位置づけ

<参考> 玉野市シティプロモーション戦略から抜粋

たまの未来会議 市内在住、または市内への通勤者、市内企業の管理職者、若手経営者、市若手職員のワークショップから

要因	強み	弱み
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然・風光明媚な景観 ・温暖な気候 ・小雨・晴れが多い ・海岸線がある ・海も山も近い ・災害が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシが多い
社会経済環境	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹産業が堅実・大企業が立地 ・高いものづくりの技術力 ・大きなスタートアップ企業の立地 ・起業が盛ん ・移住者が多い ・オシャレな飲食店やカフェがある ・宿泊場所が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化 ・労働力の減少 ・働き口が少ない ・商店街の衰退 ・空き店舗や空き家の増加 ・ベンチャーが育成できていない ・観光産業で儲けている人が少ない ・お店が少ない
都市機能	<ul style="list-style-type: none"> ・玉野医療センターたまの病院完成 ・図書館公民館がある ・スポーツ施設が多い ・クルーズ船の寄港できる宇野港バースがある ・公園が多い ・豊島や小豆島への定期航路がある ・下水道が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設が少ない ・大きな集客施設がない ・住宅地やマンションが少ない ・医療機関が少ない ・港の活用が十分にできていない ・高速道路へのアクセスが良くない ・終電が早い ・宇野線やバス等の便数が少ない ・駐車場が少ない ・大学・専門学校が少ない ・若者の楽しめる施設が少ない
地理的環境	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山市倉敷市に隣接・程よい距離感 ・直島が近い ・サイクリングに適している 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北が山で分断されて回遊しにくい ・道路の迂回路が少なく渋滞する ・マイカーがないと不便
行政サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・こども医療費の18歳までの無償化 ・学校教育IT活用が進んでいる ・市立・県立高等学校が4つある ・多様な学習環境 ・公共交通(シーバス・シータク) 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボリックなもの(場所や政策)が少ない ・夜は駅周辺が暗い

<参考>玉野市シティプロモーション戦略から抜粋

要因	強み	弱み
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・渋川海岸、王子が岳、おもちゃ王国、渋川マリン水族館 ・みやま公園 ・玉野競輪場(チャリロトバンク) ・たまの港フェスティバル、花火大会 ・マリンアクティビティ ・ボルダリングの聖地 ・釣りが楽しめる ・ゴルフ場が3つもある ・アートギャラリーがある ・瀬戸内国際芸術祭会場 ・宇野港周辺にパブリックアートが点在 ・お祭りやマルシェイベントが多い ・魚介も農産物も美味しい ・海苔・番田芋 ・ご当地グルメ ・映画のロケ地 ・天然温泉がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・これ！という特化した魅力がない ・水族館が小さい ・「目的地」になる資源が少ない
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加が盛ん ・優しい人が多い ・地域への愛着が強い ・地域愛がある ・子育てしやすい ・程良い人付き合いや地縁関係 ・近所同士の交流が多い ・時間がゆっくり流れているイメージ ・コミュニティ活動が盛ん ・程よく豊かで何でもある ・お店が増えており若者が訪れやすい取組ができている ・小さなまちなのでいろんなところを巡れる ・公式Instagram発信が充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・知名度が低い ・全市的な一体感が薄い ・子どもの習い事が少ない ・土地や家賃が高い ・官民の連携が少ない ・市外から通っている就業者や若い世代に十分に情報が届いていない

- 序章 これまでの経緯
- 第1章 第1回検討会での主なご意見
- 第2章 宇野港を取り巻く状況
- 第3章 宇野港中長期ビジョン（案）

検討会での意見

宇野港宇野地区の目指すべき方向性
(ゲートウェイ)
(目的地として惹かれる港)

ターゲットについて
(地元住民+旅行者)

アクセス面(海上・陸上交通結節点)での
機能強化について

観光・にぎわい面の機能強化について
(目的地となるもの)
(滞在箇所の拡大)

情報発信について
(戦略的な宇野港の魅力発信)

その他

目指すべき将来像

《拠点形成》

海上・陸上交通結節点を生かした滞在型観光拠点の形成

《にぎわい・観光》

観光地間連携の観光ルートの形成・サービスの充実

《情報発信》

戦略的プロモーションの実施

宇野港宇野地区 賑わい創出の中長期ビジョン(案) ※たたき台

将来像

《拠点形成》
海上・陸上交通結節点を生かした滞在型観光拠点の形成

《にぎわい・観光》
観光地間連携の観光ルートの形成・サービスの充実

《情報発信》
戦略的プロモーションの実施

基本戦略

戦略

宿泊先として選択されるための拠点形成・機能強化、持続可能な開発

戦略

玉野市拠点の観光プラン（自然、歴史、芸術）の強化

戦略

プロモーション活動、情報発信の強化

具体的な取組

やすらぎの空間形成 (Walkable City)

宿泊施設の拡充（ホテル誘致や空き家を活用した民泊など）

海上・陸上交通の充実

キラークンテンツの創出・磨き上げ（瀬戸内産業芸術祭、瀬戸内国際芸術祭等）

海上交通を使った観光プランの充実（定期船や海上タクシー）

陸上交通を使った観光プランの充実（JR、路線バス、観光バス）

あらゆる手法を活用したプロモーション活動、情報発信の強化